

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
細胞生物学分科会（第25期・第3回）

日時 令和5年8月19日（土）12:15～13:30

場所 名古屋市立大学 医学研究棟1階会議室3

及び Zoom によるハイブリッド開催

出席：小林委員（委員長）、西原委員（副委員長）、坂内委員（幹事）、遠藤委員（幹事）、大場委員、菊池委員、清川委員、糸委員、塩見委員、月田委員、東原委員、東山委員、渡辺委員

欠席：吉森委員、岡田委員、

岸本委員（ご退職）

審議及び報告事項

(1) 前回議題のその後の進展

DORA の扱いについての報告等がなされた

(2) 生物資源の問題についての情報共有

資料をもとに生物資源の遺伝情報についての情報共有をおこなった。
遺伝子配列情報にまで影響が及ぶ可能性がある。

(3) 学術会議のあり方

○基礎生物学委員会

現在、生物系では15の分科会が存在する。

これらの分科会を今後どうしていくべきか、各委員が意見を述べた。

- 分科会の視点の違いを明確にするべき。（政策を重視する分科会、研究者の環境整備、若手育成など、どこを重視して議論するか？）
- 生科連、医学会連合等、学会の集合体と意見交換が重要。
- 横のつながりを作って、共通な大きな問題に挑戦していくといいと思う。
- 多様性が大事。共通の問題にフットワーク軽く連携できるといいと思う。

- 学術誌の問題などは、いろんな学会（分科会）が連携して解決していくべき。

○ 学術会議全体について

学術会議のような機関は、「国の機関」であることはグローバルスタンダード。国の機関でなくなることには違和感。

(4) 当該分野の現状

学会を超えたような活動をするといいいのではないか（学会の意見を反映させられるような仕組みづくり）

(5) 次期への申し送り事項

「形態科学シンポジウム」は継続する

(6) その他

形態学シンポジウム（これまで13回）：高校生と研究者との直接の交流を目的とする。次回2年後令和7年の開催予定。